

2021 年度実施概要

学校名

気仙沼市立小泉小学校

採択活動名

ヒメシロチョウを守ろう

実施単元

単元名	学年	教科
1. 地域の生き物を調べよう	3年	総合
2. 地域の自然について調べよう	4年	総合

取り組みの概要

今年度は、ヒメシロチョウが生息している場所に行き、ヒメシロチョウの生態や特徴を調べる活動を行った。

3年生は、地域に絶滅危惧種がいることを知り、ヒメシロチョウの生態や特徴について調べる活動を行った。4年生と共に実際に生息地に行き、観察したことで、ヒメシロチョウの個体数が激減していることに気付いた。ヒメシロチョウを絶滅から救うために、食草を増やすことや生息している環境を維持することなど、植栽活動と自然環境の保全が必須であることを実感し、児童が探求的に学習を進めることができた。

また、4年生は学区内を流れる津谷川やその支流になる外尾川の水質調査や生き物調べを行い、周囲の自然環境が川の生き物に影響することを学んだ。

児童は、調査や体験を通して多面的に学習したことで、生息地となる小泉地域の環境を整えることがツルフジバカマやヒメシロチョウなどの生物を守ることにつながり、川や川の生き物、ひいては、海の保全にもつながっていることについて理解を深めることができた。

活動中の写真



【ツルフジバカマの観察】



【ヒメシロチョウの探索】



【餌となるツルフジバカマ】

2021 年度実施概要

学校名

気仙沼市立小泉小学校

採択活動名

遠足（～海洋の旅～）

実施単元

単元名	学年	教科
1. 遠足	1～4年	学校行事

取り組みの概要

遠足では、ミヤカンでは缶詰作りを見学させていただき、気仙沼の水産業についてお話を聞くこともできた。児童は魚を捕ったり、売ったりしている仕事だけが水産業ではなく、加工する仕事もあることを知り、遠足を通して子供たちは海の仕事について新たな視点をもつことができた。気仙沼市の水産業を支える上で、なくてはならない仕事だということを学んだ。

活動中の写真



【ゆずジャム作り】



【大島の歴史の紙芝居】



【ミヤカン見学】

2021 年度実施概要

学校名

気仙沼市立小泉小学校

採択活動名

海に親しむつどい（全校）

実施単元名 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 海に親しむ集い	全学年	学校行事

取り組みの概要

小泉海水浴場を活動場所として「海に親しむつどい」を行った。今年度は小泉幼稚園との合同開催で、幼小縦割り班をつくって活動に取り組んだ。始めに KUBU（小泉ユニバーサルビーチユニット）さんから海洋プラスチックについてお話をいただいた。海岸に漂着したプラスチックごみや流木等の存在に目を向けさせた。海に流れ出たプラスチックが海の生き物たちに影響を及ぼしていることを伝えた。児童にとって、海洋ごみの存在を知るとともに、どうすれば減らすことができるか考えるきっかけになった。その後は、砂の造形活動を行った。砂の造形活動では、浜辺に打ち上げられた海藻や貝殻を集め、各縦割り班で考えたテーマの下に活動を行い、園児と交流しながら作品作りを楽しんだ。日頃海に親しむ機会が少ない児童にとって、多くの発見がある活動となった。

活動中の写真



【KUBU さんからのお話】



【海岸清掃】



【完成した砂の造形】

2021 年度実施概要

学校名

気仙沼市立小泉小学校

採択活動名

サケのひみつ

実施単元

単元名	学年	教科
1. サケのひみつ	2年	生活
2. いのちのつながりを調べよう	6年	総合

取り組みの概要

2年生と6年生が小泉地域にあるサケふ化場へ行き、サケの生態やふ化のしくみについて学んだ。昨年度から6年生もサケふ化場を見学できるようカリキュラムを見直した。6年生は2年生のときに放流した稚魚が帰ってくることを見ることができ、学習の連続性を感じさせるとともに、目的意識をもって意欲的に取り組むことができた。

2年生はサケを川で捕獲する様子を見学し、採卵と人工授精をさせる体験をしたことで、命のつながりと命の大切さを学び、サケの生態と生き物の成長の様子について知ることができた。また、卵を学校で飼育することで、サケの成長する様子を間近で観察し、生き物の命を大切にしようとする気持ちを育むことができた。

6年生は2年生の時に放流した稚魚が成魚になって生まれた川に戻ってくることを通して、サケの回遊と海や川の環境がサケに及ぼす影響について学んだ。海水温の上昇が、サケの個体数の減少に関係していることを知り、小泉でもサケが年々減っていることを受けて海洋問題の重大さを学ぶことにつながった。

活動中の写真



【サケの採卵体験】



【飼育中のサケの卵】



【鮭増殖組合の方からの話を聞く児童】

2021 年度実施概要

学校名

気仙沼市立小泉小学校

採択活動名

小泉の水産業について調べよう

実施単元

単元名	学年	教科
1. 小泉の水産業について調べよう	5 年	総合

取り組みの概要

小泉地域の特産品であるワカメについて養殖の工夫や自然環境との関わり等を学ぶため、養殖業を営む地元業者「蔵内之芽組」で種ばさみ体験と刈り取り体験をした。子供たちは、体験と業者の方からのお話を通して、海水温が 20℃以下の低い水温でないとワカメが育たないことや、ワカメが海水中に含まれる栄養塩をえさにして成長することを学習した。

2月の刈り取りの際には、11月の種ばさみの時よりも大きく育ったワカメの様子を目の当たりにし、小泉の海の豊かさと身近な食べ物であるワカメを育てる苦労や環境問題と水産業のつながりを実感することができた。また、今年は海水温が高くワカメの芽が育ちにくかったことから、海水温などの海の環境がワカメの生育と関係していることを結び付けて考えることができた。温暖化が進む中でワカメの生育状況も悪化しているという現状を知り、小泉地域のみならず養殖業に携わる漁師の方々の努力、工夫などを知るきっかけとなり、水産業が海の環境と密接に関係していることを、体験を通して学ぶことができた。

活動中の写真



【ワカメの種ばさみ準備をする児童】



【ワカメの種を挟んでいる所】

2021 年度実施概要

学校名

気仙沼市立小泉小学校

採択活動名

海洋環境問題について考えよう

実施単元

単元名	学年	教科
1. SDGs について考えよう	4～6年	総合

取り組みの概要

東京海洋大学三陸サテライトの協力のもと、東京海洋大学の勝川俊雄准教授を講師に SDGs の 17 の項目の内容を説明していただいた。

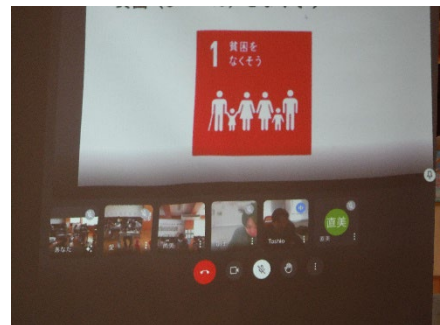
世界には、11人に1人の割合で200円未満で生活している人がいることや、飢餓が多い現状を知ることができた。また、日本では、当たり前で使用している安全な水やトイレが、他の国では必ずしも安全ではないことを学ぶことができた。さらに、世界には、小学生や中学生の年代でも、学校に行けない子供や小さい頃から生活のために働いている子供が多くいることが分かった。

講義の終盤では、持続可能な取組について、私たちにできることは何かを考えた。友達と仲良くしてジェンダーをなくすことや、給食を残さないで食べることで食品ロスを削減することなど、自分が取り組めることを考えることができた。

活動中の写真



【勝川俊雄准教授によるオンライン授業の様子】



【17の項目の説明】